

## 《どうでもいい話、その 546》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

先日、忘年会で焼き肉を食べた際、骨付き肉の骨を噛んでしまい前歯がグラつき痛くなりました。歯医者へ行ったら「歳で修復は難しく、このままか、抜いて差し歯か義歯にするしかない」と言われました。差し歯、義歯もいやなので“このまま”を選択しています。今はグラつくものの痛みはなくなりましたが、その時は、噛むと痛く柔らかいものしか食べられませんでした。ご飯は、おかゆ か雑炊です。このおかゆと雑炊の実態は、米をとことん煮て柔らかくしており、流動的で、文字どおり流動体なので、噛む必要はないのです。ところが実際におかゆと雑炊を流し込んでいる時は、噛んでも意味がないことを知りつつ、知らず知らずのうちにモグモグと噛んでいます。飲料水などの流動体は、歯も知らんぷりしていますが、おかゆと雑炊の場合は、歯にもプライドがあり、お米は噛むものというマニュアルどおり、歯の自尊心のためにおかゆ、雑炊をところどころ噛まされているのです。みそ汁やスープは硬い具が入っていても“食べる”とは言わず“飲む”です。おかゆ、雑炊は、具の多いみそ汁・スープよりも流動的なのに“食べる”です。この「飲食」の違いはなんでしょう。歯についてはまだまだ論ずべきことがあります。鬼滅の八重歯などについては、またの機会にします。

今年のどうでもいい話は、これでおしまいです。一年間お付き合い頂き有難うございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。

岩波より